



### マリーゴールド

撮影日：令和3年8月20日

撮影場所：五城目町 国道沿い花壇

## 🌱 目次

生産現場情報：TACパワーアップ大会2021

～JAこまちが『JA特別表彰（出向く活動強化運動部門）』を受賞～・・・P1～3

ご紹介：① 秋田米新品種「サキホコレ」先行販売～東京・秋田会場でイベント開催・P4

② けいきゅうキッズチャレンジ！

～あきたのお米づくりについて学ぼう＆精米体験～を開催！・・・P5

③ 「安全・安心」な牛乳づくりを検証するために現地巡回を実施

～県内79戸の酪農家を巡回訪問中～・・・P6

④ 「秋田県農業法人協会との情報交換会」を開催・・・P7

⑤ JAタウンブランドロゴとイメージキャラクターが新しくなりました・・・P8

お知らせ：JA全農あきたホームページをリニューアルしました・・・P9

## TACパワーアップ大会2021

～JAこまちが『JA特別表彰（出向く活動強化運動部門）』を受賞～

JA全農は、全国各地で日々、地域農業の担い手に出向く活動を実践している「TAC」のレベルアップを目的に、TACの活動を全国統一名称で開始した2008年より、全国のTACを対象とした「TACパワーアップ大会」を開催しています。

今年で14回目となる今大会は、11月17日に新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、本会場およびリモートでの開催となり、秋田県からはJAこまちが取り組み内容や実績が評価され『JA特別表彰（出向く活動強化運動部門）』を受賞しました。



JAこまち 藤原諭代表理事専務、専務付 担い手支援課（TAC）の皆さん  
上段左から：白鳥裕治職員、伊藤善輝係長、  
下段左から：土谷一仁課長、藤原諭代表理事専務、丹義弘課長補佐

### TACとは

5年後、10年後と地域農業を担う農業経営者を訪問し、担い手の意見や要望をJAグループの事業に反映させ地域農業の発展を支援していく活動を行うJA担当者のことです。

2008年4月、一般公募により「地域農業の担い手に出向くJA担当者」の愛称を単協・連合会が一体（チーム）となって地域農業をコーディネートするという意味を持つ

「Team for Agricultural Coordination」の頭文字をとって「T・A・C」と決定しました。



※「パワーアップ大会2021」は全国各地のTACや関係者ら約300名が参加し、全国からJAこまちを含めた6JAと、TAC8名の取り組みが表彰されたほか、担い手の要望を踏まえた経営支援等の事例が発表されました。

## JAこまちの取り組み内容とその成果

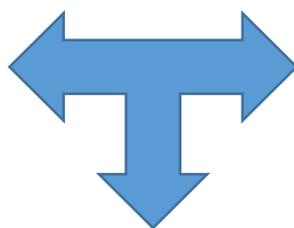
### ◆「TACシステム」を活用した情報共有

TACだけではなく、営農指導員や営農センター職員もTACシステムを活用することで、進捗管理や共有する情報の幅を広げることができました。JAが一体感を持って担い手からの意見・要望に対応する仕組みが構築されました。



TACシステムに入力

TAC、営農指導員、営農センター職員など内部で情報を共有することで情報の幅が広がる



Dr.Sum※<sup>1</sup>を使用し、TACおよび営農指導員の面談記録報告書を作成  
 ※<sup>1</sup> Dr.SumとはTACに登録された面談記録データを集計・検索するシステムです。



面談日時	面談場所	面談者	面談内容
2022年7月1日	営農指導員事務所	指導員A	指導員Aが営農指導員事務所にて、営農指導員Bと面談を行った。指導員Bは、指導員AからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月2日	営農指導員事務所	指導員B	指導員Bが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員BからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月3日	営農指導員事務所	指導員C	指導員Cが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員CからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月4日	営農指導員事務所	指導員D	指導員Dが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員DからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月5日	営農指導員事務所	指導員E	指導員Eが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員EからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月6日	営農指導員事務所	指導員F	指導員Fが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員FからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月7日	営農指導員事務所	指導員G	指導員Gが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員GからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月8日	営農指導員事務所	指導員H	指導員Hが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員HからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月9日	営農指導員事務所	指導員I	指導員Iが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員IからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。
2022年7月10日	営農指導員事務所	指導員J	指導員Jが営農指導員事務所にて、指導員Aと面談を行った。指導員Aは、指導員JからTACシステムについて説明を受け、TACシステムを活用して面談記録を報告する意向を示した。



TACおよび営農指導員の面談記録は、他部門や役員にまで報告され、「活動の見える化」につながっています。

JA内で、一体感を持って担い手からの意見・要望に対応しています。

**T**とことん、**A**会って、**C**コミュニケーション!!

## ◆ J A 事業推進プロジェクト発足

系統事業利用率の向上・拡大を図り、J A・全農が一体となった総合的支援の構築・強化を目的に令和3年3月に「J A 事業推進プロジェクト」を立ち上げました。担い手への出向く体制の強化に向けて、J A と全農が連携した担い手への訪問活動や情報共有体制を構築し、総合的視野とスピード感を持って課題解決や事業提案を実施しています。

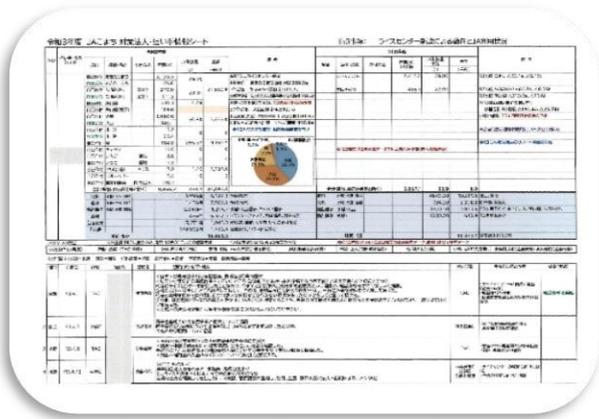


### プロジェクトメンバー

J A こまち：営農・経済部門、専務付 担い手支援課

J A 全農あきた：米穀部、園芸畜産部、生産資材部、営農支援部

また、担い手情報シートを作成することで、J A 取扱量、生産資材の系統利用率、訪問履歴、担い手の要望や対応結果について以前よりもタイムリーで、より「見える化」が図られた共有情報ツールを持つことができるようになりました。また、担い手情報シートは、J A 事業推進プロジェクト内でも利用され、より具体的な対応や提案に向けての議論ができるようになりました。その結果、J A 内部、J A 全農あきたとの同行訪問の頻度も増え、総合的でスピーディーな対応が可能となりました。



担い手情報シート

担い手からは「今までよりもレスポンスの早いスムーズな対応ができています」「米の作付け指導による新たな出荷契約の確保や、除草体系提案による雑草の減少など、担い手にとっての有利販売、生産性向上につながった」など評価を得ています。J A こまち担い手支援課の土谷一仁課長は、「T A C が設置されて12年、『T A C 活動とは！？』が見えてきたように思える。受賞したことを機に、担い手農家の満足度や信頼関係をより深められるよう頑張りたい」と話していました。

**T**とことん、**A**会って、**C**コミュニケーション！！

## 🌱 ご紹介

### 秋田米新品種「サキホコレ」先行販売～東京・秋田会場でイベント開催

令和4年秋に本格デビューする秋田米新品種「サキホコレ」の先行販売が11月6日、県内外で一斉に始まりました。今年は県内約370店、県外約250店で約400トンを先行販売します。

この日は、先行販売の開始を告げる秋田県主催のキックオフイベントが東京会場と秋田会場において開催されました。



#### 【東京会場】銀座三越（東京都中央区）

東京会場には、佐竹敬久秋田県知事やJA秋田中央会齊藤一志会長、JA全農あきた小林和久県本部長、秋田県主食集荷商業協同組合杉本良成理事長のほか、五つ星お米マイスター秋沢毬衣さん、お笑いトリオの「ハナコ」、放送作家の元祖爆笑王さんが出席しました。佐竹知事は「全国に咲き誇るトップブランドに育て上げたい」とあいさつし、齊藤会長は「農家の思いが一粒一粒に込められ、素晴らしい出来になった。全国のみなさんに食べてもらいたい」とPRしました。新品種の魅力を発信する「サキホコレアンバサダー」には、放送作家の元祖爆笑王さん、お笑いトリオ「ハナコ」の岡部大さんが就任しました。



## 【秋田会場】イオンモール秋田（秋田市）

秋田会場には、猿田和三秋田県副知事やＪＡ秋田中央会近藤悦応常務理事、ＪＡ全農あきた佐藤英一副本部長、ＪＡ秋田おばこサキホコレ生産専門部会佐々木竜孝会長、秋田県主食集荷商業協同組合渡邊與志秀第一理事が参加しました。

販売イベントでは、東京会場をオンラインでつなぎ大画面に映し出し２か所同時にテープカットが行われた後、販売が始まりました。同店では長蛇の列ができ、用意した２００袋は約２０分で完売しました。佐藤副本部長は「『サキホコレ』がきっかけとなり、秋田米の販路や高評価が広まってほしい」と話しました。また、佐々木会長は「良いお米ができたので、たくさんの人に食べてもらいたい」と話しました。



## けいきゅうキッズチャレンジ！

### ～あきたのお米づくりについて学ぼう＆精米体験～を開催！

「京急あきたフェア」の連動企画として11月20日、けいきゅうキッズチャレンジ「あきたのお米づくりについて学ぼう＆精米体験」をリモート開催しました。

参加したのは、午前の部11名、午後の部9名の小学生合わせて20名。秋田県がお米づくりに適している理由や、お米づくりの工程を説明したあと、脱穀から粳すりの方法を実演を交えながら紹介しました。その後、参加者みんなで玄米から白米にする精米体験を実施。ガラス瓶に玄米を入れ、棒で突く作業を一生懸命行いました。普段食べている白いお米になるまでの過程を精米体験を交えて学んだ小学生たち。

「ごはん」をたくさん食べて、元気な毎日を過ごしましょう！



## 「安全・安心」な牛乳づくりを検証するために現地巡回を実施

～県内79戸の酪農家を巡回訪問中～

J A全農あきたは、消費者に安全で安心な牛乳をお届けするため、酪農家が生産する牛乳の品質向上と事故防止を目的として県内の酪農家（79戸）を巡回訪問しました。例年は県の関係者も含め多数で巡回していますが、今年は新型コロナウイルスの観点から、J Aや酪農専門農協、J A全農あきたの担当者と委託獣医師の数名で訪問しました。訪問は8月から11月まで実施され、チェックシートに基づき搾乳機械や冷蔵設備、医薬品の投与や給餌、牧草への農薬散布記録について確認しました。



訪問では、経営概況や今後の経営方針、牛の健康状態等を聞き取りし、健康管理や給餌方法について獣医師からの意見を踏まえてアドバイスしたほか、酪農家からは酪農情勢に関する意見や、国や行政、本会に対する要望等も聞き取りし、相互に情報交換ができる場としても活用しています。また、今回の訪問で指摘事項があった酪農家に対しては、来年の訪問時までには改善されているかを再度チェックしていきます。

県内の酪農家は規模を拡大し大規模で効率的な営農を行っている酪農家がいる半面、小規模で後継者不在の酪農家も多く、経営継続を断念する酪農家もいます。また、高齢化や労働力不足の課題もあり、J A全農あきた畜産酪農課では、こうした課題の解決に向けて、今後もJ Aや酪農専門農協、県、行政と連携しながら県内酪農家の支援に取り組んでいきます。

## 「秋田県農業法人協会との情報交換会」を開催

J A全農あきたは11月19日、秋田県農業法人協会との情報交換会を開催しました。今年で15回目となる今回の情報交換会には、秋田県農業法人協会とJ A全農あきたの関係者など20人が参加しました。



J A全農あきたの小林和久県本部長は「今年は豪雪や春のひょう害など気候変動の大きい年であった。水稻では生産者の弛まぬ努力により作況が102の「やや良」となり安堵しているが、需給は低迷が続きなかなか価格上昇がみられない厳しい環境にある。そのような中で県内外から高い評価をいただいている秋田米新品種「サキホコレ」のプレデビューは喜ばしい話題である。これまで築いてきた信頼関係をもとに情報共有し、今後もいろいろな提案をしながら営農の支援をさせていただきたい」とあいさつしました。情報交換会では、J A全農あきたの取り組みについて各部から報告を行いました。参加した会員からは、再生産可能な米価維持や物流課題への取り組み、労働力支援などについて活発な意見が出されました。

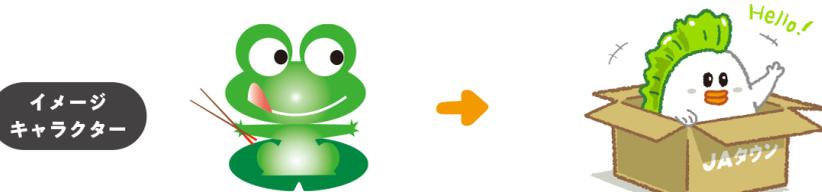




JA全農が運営するインターネットショッピングサイト「JAタウン」が今年で事業開始20周年をむかえ、JAタウンのブランドメッセージ・ロゴ・イメージキャラクターについて、刷新しました。

変更前

変更後



新たなイメージキャラクターとして「じえー太」が誕生しました。今後、「じえー太」は農畜産物（商品）の化身的な存在として、お客様と生産者様をつなぐJAタウンのコミュニケーションの中心的な役割を担っていきます。今後の「じえー太」の活躍にも、ぜひご期待ください。

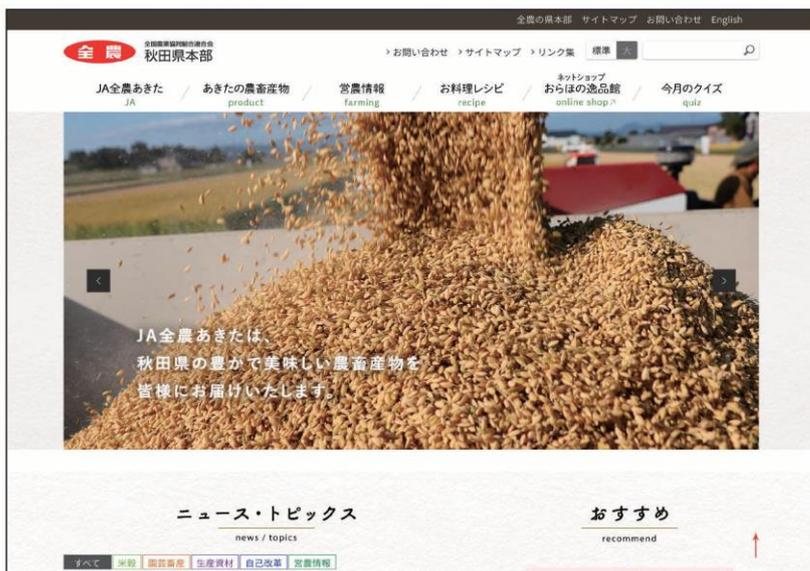


新しいブランドメッセージは「おいしい日本と暮らそう。」です。品質が良く、安心安全な国産の農畜産物を産地からお客様にお届けし、食を通じた体験により、お客様の暮らし、生産者の皆さんの暮らしをともに豊かにすることを目指します。

JA全農あきたでは「おらほの逸品館」にて、秋田県内の農畜産物を販売しています。現在「きりたんぼ鍋セット」を中心としたお歳暮商品など好評販売中です！



# より見やすくより快適にお使いいただけるように ホームページをリニューアルしました



これからも秋田の農業に関する情報をお届けします。

<https://www.zennoh.or.jp/ak/>



11月からJA全農あきたのホームページをリニューアルしました。

JA全農あきたの取り組みや、秋田県の農畜産物に関する情報など、より見やすく、より分かりやすくリニューアルしました。これからも秋田の農業に関する情報をお届けします。ぜひご覧ください。

Za・あぐりふおーむ  
Zennoh-akita agriculture+reform



JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ  
第22号 令和3年12月6日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462